

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本校は、学校教育法に基づき保育福祉及び幼児教育の分野において、実社会で活躍できる人材を養成し、社会の福祉に貢献することを目的とする。

(名 称)

第2条 本校は、日本児童教育専門学校という。

(位 置)

第3条 本校の位置を東京都新宿区高田馬場1丁目32番15号に置く。

(自己点検・評価)

第4条 本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2. 前項の点検及び評価の実施に関し、必要な事項は別に定める。

第2章 課程及び学科、修業年限、定員並びに休業日

(課程・学科・修業年限・定員)

第5条 本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は、次のとおりとする。

課 程	昼夜	学科・コース	修業年限	入学定員	総 定 員	学 級 数
児童教育専門課程 (教育・社会福祉関係)	昼間	総合子ども学科	3年	40	120	3
	昼夜開講 (昼間)	保 育 福 祉 科 昼 間 コ ー ス	2年	120	240	6
	合 計			160	360	9
	昼夜開講 (夜間)	保 育 福 祉 科 夜 間 主 コ ー ス	2年	80	160	4
合 計			80	160	4	
総 合 計				240	520	13

※各学科の在学年限の上限は、修業年限の2倍とする。

*平成28年度以降

課 程	昼夜	学科・コース	修業年限	入学定員	総 定 員	学 級 数
児童教育専門課程 (教育・社会福祉関係)	昼間	総合子ども学科	4年	—	40	1
合 計				—	40	1

※各学科の在学年限の上限は、修業年限の2倍とする。

*平成27年度入学まで。

(学年・学期の終始期)

第6条 本校の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2. 学年を分けて、次の前期・後期とする。

前期 4月1日から8月31日まで

後期 9月1日から3月31日まで

(休業日)

第7条 本校の休業日は、原則として次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律で規定する日
 - (3) 夏期休業 8月1日から8月31日まで
 - (4) 冬期休業 12月末日から1月3日まで
 - (5) 春期休業 1月3週目から3月31日まで
 - (6) 創立開校記念日 10月1日
2. 教育上必要があり、かつ、やむを得ない事情があるときは、前項にかかわらず、休業日に授業を行うことがある。
 3. 夏期・冬期・春期休業中に実習を行うことがある。
 4. 非常変災その他急迫の事情があるときは、臨時に授業を行わないことがある。

第3章 教育課程、単位数、定期試験及び教職員・組織

(教育課程・単位数)

第8条 本校の教育課程は、「別表1（第8条関係）教育課程及び授業単位数」に定める。

なお、単位数は、以下の様に定める。

2. 授業時数の1単位時間は45分とし、卒業までに履修させる単位数は、総合子ども学科にあっては93単位以上、保育福祉科にあっては70単位以上とする。

(授業時数の単位数への換算)

第9条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを基準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める授業時間をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める授業時間をもって1単位とする。
- (3) 前項の規定にかかわらず、卒業研究の授業科目については、学修成果を評価して単位を与えるものとする。

(成績評価)

第10条 授業科目の成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が本学則に定める授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。なお、実習については、それぞれの施設に応じた日数の実習参加、及び施設からの実習評価をもって成績評価を行う。

但し、原則として、前期試験については7月27日までに前期分学費、後期試験は12月27日までに後期分学費の納入が確認できない場合、試験は受けられるが、成績評価を受けることができない。

2. 成績の評価と評価基準は以下の通りである。

S、A、B、C、D、E、Nで表し、C以上が単位を付与される

90点以上をS、80点～89点をA、70点～79点をB、60～69点をCとして認定し、59点以下をD（不合格）、出席不足をEとする。また、認定科目をNとする。

（定期試験）

- 第11条 定期試験は前期試験と後期試験がある。定期試験の実施形態は筆記試験、実技試験とする。但し筆記試験は、課題（レポート）提出、作品提出、口頭試問に代えることができる。試験日程は原則として試験1週間前に掲示する。
2. 定期試験を欠席した者で正当な理由がある場合には追試験を受けることができる。
 3. 不合格科目について、既定の範囲内で再試験を実施する場合もある。
 4. 試験期間中不正行為、不良行為があった時は、原則として全科目の試験を無効とし、専任講師会議で処分を決定する。
 5. 無記名答案は無効とする。
 6. 受験者は筆記用具以外は机の上に置いてはならない。但し出題者から指定がある場合はこの限りではない。
 7. 受験中の私語は一切禁止する。また、携帯電話等の電子機器については電源を切り、カバンなどに入れ一切触れてはならない。
 8. 受験中の質問はあらかじめ挙手の上、試験監督者の許可を得なければならない。その他、受験に際してはすべて試験監督者の指示に従わなければならない。

（追試験）

- 第12条 追試験は病気、忌引き、就職活動、交通機関のトラブルなどやむをえない理由のために受験できなかった者で、証明できる理由書（診断書、忌引き届、遅延証明書等）を添えて、試験日から2日以内に事務局に連絡し『追試験届』を提出後、正当と認められた場合に限り許可される。

（再試験）

- 第13条 再試験については、D（不合格）の評価であった者に対して実施することがある。再試験の対象者が掲示された後、『再試験届』と受験手数料3,000円を添えて事務局に提出しなければならない。

（出・欠席・遅刻・早退・出席停止及び公認欠席）

- 第14条 出席が授業時数の3分の2に達しない時には当該授業の成績の評価を受ける資格を失う。従って、やむを得ない理由のない限り全授業時数に出席すること。
2. 次の事由の欠席は各種証明書を添えて『公認欠席届』を提出し、審査で認められた場合に公認欠席となる。公認欠席は、成績評価において、教育的配慮が施される欠席（出席に振り替えることはできない）となる。但し、皆勤賞、精勤賞の審査の際には公認欠席は欠席とみなされない。
 - (1) 1親等以内（父母、子）の忌引きによる欠席（原則として5日間）
2親等以内（配偶者、兄弟姉妹、祖父母、孫）の忌引きによる欠席（原則として3日間）
 - (2) 保育実習・教育実習（その他実習に関わる事項）
 - (3) 就職試験
 3. 公認欠席届は最終欠席日から1週間以内を提出期限とする。
 4. 遅刻・早退3回で「欠席1回」とみなし、授業開始後30分以上の遅刻は欠席とし、授業開始60分以内の早退は欠席とする。
 5. 次の感染症に罹患した時は出席停止となる。欠席後医師の診断を受け、治癒するまでの間出席停止とする。出席するときは医師の再診を受け、『治癒証明書』を持参し出席可となる。

※インフルエンザ、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
以上「学校保健安全法」施行規則第19条による

（併修）

第15条 総合子ども学科は大阪芸術大学短期大学部通信教育部を履修し、幼稚園教諭2種免許、社会福祉主事任用資格を取得する。

児童教育科は大阪芸術大学短期大学部通信教育部を履修し、保育士資格、幼稚園教諭2種免許、社会福祉主事任用資格を取得する。

（単位の認定）

第16条 他の大学・短期大学・専修学校等において取得した単位のうちで、本校が教育上有益と認めるときは、当該課程における科目の履修とみなすことがある。ただし、30単位を超えない範囲とする。単位の認定を受ける者は『単位認定申請書』に必要書類を添付し、指定の期日までに事務局に提出しなければならない。学科長会議を経て認定される。

（授業の終始期）

第17条 本校の始業及び終業の時刻は、次のとおりとする。

(1) 総合子ども学科は、午前9時から午後4時10分までとする。

(2) 保育福祉科は、

昼間コース：午前9時～午後4時10分

夜間主コース：月曜日から金曜日：午後4時20分～午後9時30分

土曜日：午前9時～午後4時10分まで

（教職員組織）

第18条 本校に次の教職員を「専修学校設置基準」及び「指定保育士養成施設指定基準」に基づき配置する（『教職員採用規定』は別紙に記載）

(1) 校長

(2) 副校長

(3) 教員（専任）

(4) 教員（兼任）

(5) 事務長

(6) 事務職員

(7) 学校医

2. その他、必要に応じて、学校経営会議で協議の上、配置することがある。

3. 職員の業務は次のとおりである。（『職務規定・業務内容』は別紙に記載）

(1) 学校長は校務をつかさどり、教職員を統括する。

(2) 副校長は校長を補佐し、校務を掌握する。

(3) 専任教員は教務及び学生の指導に当たり、校長の命を受け校務をつかさどる。

(4) 兼任教員は専任教員の職務に準ずる。

(5) 事務長は校長、副校長を補佐し、所属職員を監督し事務を掌握する。

(6) 事務職員は上司の命を受けて、事務をつかさどる。

(7) 学校医は校長の命を受けて、学生、職員の保健管理について医務をつかさどる。

（専任講師会議）

第19条 専任講師会議は、原則として校長、副校長、専任教員、事務長で構成され以下の事案を協議する。

- (1) 学生の学習状況、及び生活指導に関する事案。
- (2) 学生の実習状況、就職活動に関する事案。
- (3) 学習の評価、単位認定、及び学生の進退、懲戒に関する事案。
- (4) 学術研究、各種学会、研修に関する事案。
- (5) 学則の改廃に関する事案。
- (6) その他、校長もしくは副校長が必要と認めた事案。

2. 会議の事案によっては、校長もしくは副校長の判断で、適切な他の教職員が参加することがある。

(委員会組織)

第20条 各種委員会を組織し、学校運営の円滑化、活性化を図る。委員会組織は以下のとおりである。

委員会の内規は別に定める。(['委員会規定']は別紙に記載)

- (1) 教育課程編成委員会
- (2) 学校関係者評価委員会
- (3) 自己評価委員会
- (4) 第三者評価委員会
- (5) 行事委員会
- (6) ハラスメント委員会
- (7) その他委員会(当該年度のみ会議、例えば「敬心学術研究会学内委員会」など)

(学校経営会議)

第21条 学校経営会議は、原則として校長、副校長、事務長、学科長で構成され以下の事案を協議する。

- (1) 学校の事業計画、予算編成に関する事案。
- (2) 学科の改編、定員に関する事案。
- (3) 募集業務に関する事案。
- (4) 教職員の人事(進退、懲戒)に関する事案。
- (5) その他、校長もしくは副校長が必要と認めた事案。

2. 会議の構成者については、校長もしくは副校長の判断で、事案に応じて変更・追加することがある。

(その他の会議)(['会議規約']は別紙に記載)

第22条 第19条から第21条までのほか、以下の会議を設置する。

総合講師会、教育課程教務会議、教職員全体会議、保育士養成課程担当者会議、短大併修課程担当者会議、学科長会議、実習担当者会議、ボランティア会議

第4章 入学、休学、退学、転科、復学、再入学、除籍、卒業及び処罰

(入学資格)

第23条 本校の入学資格は次のとおりとする。

- (1) 高等学校を卒業した者。
- (2) 専修学校の高等課程を卒業した者。
- (3) 外国において12年以上の学校教育課程を修了した者。
- (4) 大学入学資格検定規定により、文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者。

- (5) 高等学校卒業認定試験（旧大検）に合格した者。
- (6) 中学を卒業し18歳以上で高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本校が認めた者。
その場合、筆記試験を含め「認定試験」を課すことがある。

（入学時期）

第24条 入学、及び進級の時期は毎年4月始めとする。

（入学手続・許可及び保証人）

第25条 本校の入学手続きは、次のとおりとする。

- (1) 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書、その他の書類に必要事項を記載し、指定期日までに出席しなければならない。
- (2) 出願方法はAO（アドミッション・オフィス）入試、社会人入試、推薦入試、一般入試の4種類とする。
- (3) 前号の手続きを終了した者に対して入学試験を行い、入学者を決定する。
- (4) 本校に入学を許可された者は、原則として、合格通知到着後から14日以内に第37条に定める入学金・授業料・設備費を添え手続きをとらなければならない。ただし、事情がある場合は、所定の手続きをした上で、分納を許可する。
- (5) 入学に際し、保証人を立てなければならない。保証人は独立の生計を営み学生の身上に関して、一切の責任を負うことができる身元確実な成年者でなければならない。独立の生計を営んでいないと学校が判断した場合には第3者の保証人を立てなければならない。また、保証人に一身上の変動があった場合は直ちに届け出るとともに、改めて保証人を定めなければならない。保証人は学籍簿に署名・捺印をしなければならない。
- (6) 入学に際し、『誓約書』に本人と保証人が署名・捺印をしなければならない。

（休学）

第26条 疾病、その他やむを得ない事由によって休学しようとする者は、『休学届』にその事由を記し、担任の面談を経て、校長の許可を受けなければならない。原則休学の上限は1年とし、2年目に入る場合は、新たに校長の許可を受けなければならない。尚、休学期間における設備費を、休学費として納めなければならない。

（自主退学）

第27条 退学しようとする者は、その事由を『退学届』に記し、担任の面談を経て、校長の許可を受けなければならない。

（転学）

第28条 他の学校への転学を希望する者は、担任との面談を経て、校長の許可を受けなければならない。

（転科）

第29条 転科しようとする者は、その事由を『転科届』に記し、担任と学科長の面談を経て、「転科入試面接試験」を受け、合格しなければならない。原則として、指定保育士養成学科同士のみを対象とする。

（復学・再入学）

第30条 前条により休学、自主退学した者が1年以内に復学・再入学しようとする場合は、休学、自主退学後にその事由を『復学届』『再入学届』に記し、正当な事由があると認められた場合、担任、学科長の面談を経て、校長の許可を受けなければならない。復学・再入学の時期は原則として、年度初めとするが就業に差し支えないと学校長が判断すればこの限りではない。また、取得し

ている単位はそのまま充当する。入学金は徴収しない。

(除 籍)

第31条 学生が次の各号に該当する場合、校長はこれを除籍することがある。

除籍者は抹籍となり、在籍中の取得単位は抹消となる。

- (1) 指定された期日までに、正当な理由なく学費を納入しない者。
- (2) 本学において修学の意志がないと認められる者。
- (3) 休学期間が通算で修業年限を超える者。
- (4) 休学及び留年の期間が通算で修業年限を超える者。
- (5) 第36条により除籍処分を受けた者。

(修了の認定)

第32条 校長は、教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。

(卒 業)

第33条 本校所定の課程を修了した者には、卒業証書を授与する。学費未納者は卒業を認めない。

2. 総合子ども学科、保育福祉科に在籍し、保育士資格を取得しようとする者は、「児童福祉法施行令」「児童福祉法施行規則」、学則の「別表1（第8条関係）教育課程及び授業単位数」に定める科目を、それぞれ履修し、その単位を修得しなければならない。
3. 保育士資格取得に必要な科目の単位を未取得の場合でも、卒業に必要な総単位数を満たしている場合は、資格付与のない卒業を認める。

(称号の授与)

第34条 前条に規定することにより、本校の課程を修了した者は、専門士（教育・社会福祉専門課程）と称することができる。ただし、平成27年度までに入学し、総合子ども学科を修了した者は、高度専門士（教育・社会福祉専門課程）と称することができる。

(褒 賞)

第35条 皆勤、精勤であった者は皆勤賞、精勤賞を付与する。

また、成績優秀にして他の模範となる者は、専任講師会議で選抜し、『在校生特待生』として褒賞し、授業料の一部を免除する。

(懲 戒)

第36条 本学の規則に背き又は本学の秩序を乱し学生として本分に反した行為があった場合、校長は専任講師会議の審議を経てこれを懲戒する。

2. 懲戒処分を分けて、けん責、停学及び退学とする。

(退 学)

第37条 以下に該当する者には、専任講師会議の審査を経て、退学を命ずることがある。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣性等で卒業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第5章 入学金、授業料、その他

(納付金)

第38条 本校の入学金、授業料等は、次のとおりとする。

平成27年度までの入学者

(1) 総合子ども学科

授業料（年額）	740,000円
設備費（年額）	180,000円
併修費（年額）	100,000円
同窓会費	10,000円（4年次のみ）

(2) 児童教育科

授業料（年額）	740,000円
設備費（年額）	180,000円
併修費（年額）	200,000円（3年次は100,000円）
同窓会費	10,000円（3年次のみ）

(3) 保育福祉科

授業料（年額）	480,000円
設備費（年額）	120,000円
同窓会費	10,000円（3年次のみ）

平成28年度からの入学者

(1) 総合子ども学科

入学選考料	10,000円
入学金	120,000円
授業料（年額）	840,000円
設備費（年額）	180,000円
併修費（年額）	140,000円
実習費	80,000円（1年次・2年次）
同窓会費	10,000円（3年次のみ）

(2) 保育福祉科

入学選考料	10,000円
入学金	120,000円
授業料（年額）	720,000円
設備費（年額）	120,000円
実習費（年額）	60,000円
同窓会費	10,000円（2年次のみ）

2. 本学に入学を許可された者は、入学金及び授業料、設備費、併修費、実習費を指定期日までに納付しなければならない。
3. 入学手続きを完了した者が、3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、入学金を除き授業料、設備費、併修費、実習費を返金する。
4. 再実習となった場合、再実習費として1回当たり40,000円を別途追加で納付しなければならない。

5. 納付金は年額の一括全納を原則とするが事前申請により（毎年3月31日までに）2回に分納できる。

また、保育福祉科は同じく事前申請により、月々の分納も可能である。

（学費減免）

第39条 本校は学費減免のためにAO入試奨学金、法人・施設長推薦奨学金制度を設けている。

2. 留学生は2年次進級時に100,000円を減免する（留学生以外の外国籍は除く）。
3. 本校は、別に定める「日本児童教育専門学校 授業料免除規定」により、選考の上、授業料の減免を行うことがある。

（学費納入）

第40条 当該年度の授業料、設備費、併修費は、次の指定期日までに納付しなければならない。分納の場合も申請の上、次の指定期日までに納付しなければならない。

- (1) 前期分は、原則として7月27日までに納付しなければならない。
- (2) 後期分は、原則として12月27日までに納付しなければならない。
2. 既納の学費は、原則として返金しない。
3. 学期の途中で退学、除籍、休学した者の当該期分の学費は徴収する。納入しなければ除籍対象となる。

（健康診断）

第41条 健康診断は、毎年1回、年度初めに実施する。実習に関する健康診断はその都度実施する。

第6章 附帯教育

（附帯教育）

第42条 本校で附帯事業を実施する場合、本項にて定めることとする。

本校は学校教育法施行規則（第4条第1項）により、以上のごとく学則を定める。

附 則

1. この学則は、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成28年4月以前の入学者には従前の規定を適用する。
2. この学則の施行に関し必要な事項は、校長が別に定める。